



2021年1月4日

各 位

三重県保険医協会

運動の取り組みについて

2020年11月12日、衆議院第2議員会館で『みんなでストップ!負担増』署名提出集会が開催された。参加者は、国会で90人、オンラインで全国15か所から約30人、計120人が参加。三重協会からは、鶴飼・梅村各副会長がオンラインで視聴参加した。

なお同日には、全国から集まった14万2069筆の署名を国会議員に提出した。

開会挨拶で住江憲勇保団連会長から「菅政権は、自助・自己責任を強調し患者負担増を進めている。患者さんの実態が分かる医師・歯科医師が声を上げ、負担増を止めよう」と呼びかけ集会が始まり、その後の連帯挨拶では「認知症の人と家族の会」の鈴木代表理事から「政府は利用者負担増だけでなく、介護保険の受給権を脅かし制度の根幹に関わる制度改悪をコロナ禍で次々に打ち出している」との話があった。

またフロア発言では、歯科で長期間定期検診に来られず総義歯が必要な状態にまで口腔内が悪化した患者や、これまで幼児の歯科検診でむし歯が見つかっていなかったが削って治療が必要な幼児が複数人見つかった、医療機関での支払いを負担と感じ、薬が切れたままにいるうちに脳梗塞を発症した等、コロナで受診抑制が症状を深刻化している患者が多いことが報告された。

最後の閉会挨拶では、宇佐美保団連副会長から「コロナによる受診抑制で健康被害が深刻化している。菅首相はコロナで生活が苦しい国民によく『自助』などと言えるなと感じる。今こそ『公助』が前面に出るべきときだ」と集会を締めくくった。

集会には、16人の国会議員も駆けつけ、署名を受け取ったほか、負担増中止に向けた決意や、新型コロナ感染拡大の中で奮闘する医療従事者への激励などを述べられた。議員に署名を提出する際にオンライン参加者は『みんなでストップ!負担増』のプラカードを掲げアピールを行った。

以 上